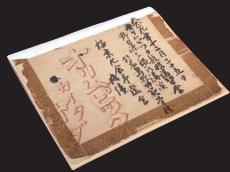


## 展示予定資料(主なもの)



### 原点ノート

15歳の時に参加した陸上講習会で学んだことをまとめたノート



### ディプロマ

23歳で出場し、三段跳で優勝した際のアムステルダム大会のディプロマ(賞状)



### スパイク

26歳で三段跳世界記録を達成した際に使用したスパイク

## 織田幹雄 Mikio Oda

広島県海田市町(現広島県安芸郡海田町)で生まれる。鼓浦尋常高等小学校(現海田小学校)卒業後、広島中(現広島国泰寺高等学校)に入学。1920年、15歳の時に第7回オリンピック・アントワープ大会に出場した野口源三郎選手の講習会に参加したことをきっかけに本格的に陸上競技をはじめ。すぐに跳躍種目で頭角を現し、1924年のパリ大会に初参加(三段跳・6位入賞)。4年後の1928年のアムステルダム大会で、三段跳15m21cmの記録で優勝。日本人初のオリンピック金メダリストとなる。引退後は、1964年の東京オリンピックで陸上日本代表総監督を務めるなど、後進の育成、陸上競技の発展に努めた。



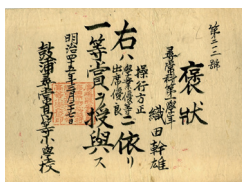
1928年オリンピック・アムステルダム大会時の三段跳

| 年    | 年齢 | 項目                            |
|------|----|-------------------------------|
| 1905 | 0  | 3月30日 広島県海田市町で生まれる            |
| 1911 | 6  | 鼓浦尋常高等小学校(現海田小学校)入学           |
| 1918 | 13 | 広島県立広島中学校(現県立広島国泰寺高等学校)入学     |
| 1922 | 17 | 初の日本記録(走高跳・第6回極東選手権大会第1次予選会)  |
| 1923 | 18 | 広島高等師範学校第二臨時教員養成所(後の広島大学)入学   |
| 1924 | 19 | 第8回オリンピック・パリ大会出場(三段跳・6位入賞)    |
| 1925 | 20 | 第一早稲田高等学院入学(後に早稲田大学に進学)       |
| 1928 | 23 | 第9回オリンピック・アムステルダム大会出場(三段跳・優勝) |
| 1931 | 26 | 大阪朝日新聞社入社                     |
| 1945 | 40 | 日本陸上競技連盟常務理事                  |
| 1948 | 43 | 日本オリンピック委員会委員                 |
| 1964 | 59 | 第18回オリンピック・東京大会 陸上日本代表総監督     |
| 1967 | 62 | 第1回織田賞陸上大会(現織田幹雄記念国際陸上競技大会)開催 |
| 1976 | 71 | 国際オリンピック委員会オリンピック・オーダー(功労賞)受賞 |
| 1986 | 81 | 海田町名誉町民(この他に名誉東京都民・広島県民など)    |
| 1998 | 93 | 12月2日 神奈川県にて逝去                |

## 幼少期エピソード

織田幹雄は、6人兄弟の3番目(三男)として、広島県海田市町に生まれました。幼少期は小柄でしたが、近所の子供たちと山野を駆けまわる元気な男の子でした。成績も優秀。ただし、人一倍の恥ずかしがりやでした。

家の手伝いを積極的にこなすうちに、「どうすればうまく、早く片付けられるか」と創意工夫をする力を身につけ、これが後の陸上競技にも活かされたと振り返っています。



## オリンピック・アムステルダム大会エピソード

1928年にオランダ・アムステルダムで行われたオリンピックに、走高跳・走幅跳・三段跳で出場。走高跳・走幅跳は予選落ちしますが、「全力を尽くすのみ」と思い直して臨んだ三段跳で15m21cmを跳び優勝。日本人として初めて金メダルを獲得します。日本の優勝は予想外だったのか、国旗掲揚係が手間取っているのを見かねて、盟友の南部忠平選手がウィニングラン用の国旗を差し出したことで、両脇のものとくらべ特大な日章旗が掲げられました。



あわせてご覧ください

## 旧千葉家住宅 広島県指定重要文化財・広島県指定名勝

織田幹雄スクエア(織田幹雄記念館)隣接

公開日: 毎月第2土曜日の前日から連続4日間  
公開時間: 10:00~16:00

見学無料

近世山陽道(西国街道)の宿駅・海田で、要職を務めた千葉家の旧宅。書院は広島県指定重要文化財、庭園は広島県名勝に指定されています。

